

提 案 概 要

実施期日	7月29日(火)【午後】
部 会 名	小学校 家庭部会

1 提案テーマ 『自分にできることをしようとする力を育てる家庭科教育を目指して』

2 単元(題材) 元気な毎日と食べ物

3 学年 第5学年

4 平成25・26年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

- ① 2学年間を見通した指導計画、評価計画の作成と学習指導の工夫
- ・実践的・体験的な活動、問題解決的な学習、言語活動の充実を目指した学習指導の工夫

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第2章 第8節 家庭 第2 各学年の目標及び内容〔第5学年及び第6学年〕

2内容B 日常の食事と調理の基礎

- (1) ア 食事の役割を知り、日常の食事の大切さに気付くこと。
- (2) ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること。
 - イ 食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせるとる必要があることが分かること。
 - ウ 1食分の献立を考えること。

6 実践に向けての課題意識

子どもたちは成長するにつれ、自分で食事を選ぶ機会が増えてくる。出来合いの弁当や惣菜から冷凍食品、スナック菓子など、食べたいと思えば何でも手に入る現代の環境において、「何をどのくらい食べるか」という食品を選ぶ目や基準をもつことが、その人の食生活を大きく左右することになる。この学習を通して、子どもたちには日常の食事への関心を高め、食事の大切さに気付かせるとともに、栄養を考えた食事のとり方の必要性を理解させたいと考えた。

そこで、宿泊学習の朝食バイキングを擬似体験させることで、主体的に課題を意識させるようにした。食事の役割を理解し、自分の食生活を見つめ直したり、栄養を意識して食事を選んだりしようとする力につながるよう設定した。

7 実践の概要

- ・カードを使って朝食バイキングを擬似体験させることで、自分が選んだ食事の栄養バランスについて課題意識をもたせる。
- ・それぞれの栄養素をキャラクター化した教材を使って、5大栄養素と食品の体内での主な働きについて分かりやすく理解させるとともに、組み合わせるとる必要があることに気付かせる。
- ・学習したことを活かして、再びカードを使って朝食バイキングの擬似体験を行い、基礎知識の定着を図る。
- ・ごはんのみそ汁の実習を通して、基礎・基本の知識と技能を身につける。

8 成果と課題

朝食バイキングの擬似体験では、選んだ食品を栄養素の働きごとにシールの色で分類させたところ、自分の食事の偏りについて課題を意識することができた。その偏りをどのようにしてバランスの良いものにしていくかを、グループで話し合ったり資料を用いて調べたりして一人ひとりがよく考え、意欲的に取り組んだ。再度擬似体験をさせると、子どもたちはバランスよく食品を選ぶことができていた。「気づき」が活かされていたように思う。

今後はこの気づきをいかに継続させ、子どもたちが自分自身でできることを増やし、日常生活にいかにフィードバックさせていくかが課題である。この課題を達成させたり課題に向けて取り組んだりすることで、子どもたちの豊かな生活が実現できると考えている。

9 予想される協議の柱

- ①実践的・体験的な活動を取り入れ、課題意識をもたせる授業づくりの工夫
- ②実践意欲を高める、家庭との連携の仕方